

編集後記

(57巻 第5号 2011年5月)

ついに京大病院にもdaVinciが導入された。実は5~6年前から大学当局に概算要求を出し続けてきたが、病院の赤字財政を理由にまったく取り上げてもらえなかった。一昨年、やっとdaVinciが薬事承認を得たため、再度病院長にかけあって何とか納得してもらったが、この仕事が私が副院長として仕上げた最も大きな業績かもしれない。福島県須賀川でのOff-site Training(ブタでの訓練)を大震災の直前に終了していたので、4月中旬に第1例目を行うことが出来た。たいへん緊張したが、いろいろなスタッフのバックアップで何とか安全に手術を完遂することが出来た。やはり腹腔鏡下前立腺全摘と比較すると手術操作の正確性が格段に異なることが実感できた。今後、日本でも様々な領域で広がっていく術式と思われるが、医療ロボットを利用することによって、これまでには無かった新しい医療を開発していくことがわれわれの今後の課題であろう。

昨日、病院の事務職員さんと話をする機会があったので、京大病院でもdaVinciを買ったことを話した。彼は「いくらくらいしたんですか?」「3億円ですか。どこからそんなお金が出たんですか?」と不思議そうに話を聞いていた。そして最後にとうとうこう質問した。「ところでその絵はオペ室のどこに飾るんですか?」。

(小川 修)